

2019年度第3回西日本放送番組審議会

開催年月日 2019年6月11日(火) 14:00~16:00
開催場所 西日本放送高松本社 5階役員会議室
委員の出欠 委員総数 8名
出席委員数 5名

出席委員の氏名

高嶋克洋	委員長
佃昌道	委員
藤村晶彦	委員
片岡雅子	委員
岡田佳子	委員

欠席委員の氏名

鈴木賢史	委員
森下聖史	委員
守家祥司	委員

社側の出席者

中村卓朗	(代表取締役社長)
富永久	(取締役総務局長)
吉岡邦男	(監査役)
小野修一	(報道制作局長)
福田好生	(ラジオセンター長)
白井美由紀	(ラジオディレクター)

事務局

和家剛	(編成業務部長兼放送審議室長)
香山豊宏	(編成業務部兼放送審議室)
山本峰子	(放送審議室)

2019年度第3回番組審議会議事次第

開催日 2019年6月11日(火) 14:00～16:00

場 所 西日本放送高松本社 5階役員会議室

〔議 事〕

議事進行 高嶋克洋委員長

社側挨拶 代表取締役社長 中村卓朗

1. 議 題 ラジオ番組

『 RNC 春の防災特別番組
「備える力が命を守る」 』

2. 質疑応答

〔参考資料〕

- 平成30年度第10回番組審議会議事録
- 2019年度第 1 回番組審議会議事録
- 視聴者対応 4月
- BPO No.201
- 民間放送(新聞)5月23日・6月3日
- 放送倫理手帳2019

〔次回開催予定〕

開催日 2019年7月23日(火) 14:00～16:00

場 所 西日本放送岡山本社 3階会議室

TEL 086-244-0111

議 題 テレビ番組

『 海は知っている
～ 詫間海軍航空隊 ～ 』

放送日 2019年4月28日(日) 6:30～7:00

制 作 RNC西日本放送テレビ

※後ほど番組DVDをお送りする予定です。

以上

【6月 番審議事概要】

今回は、ラジオ番組『 RNC春の防災特別番組「備える力が命を守る」 』を聴取していただきました。

委員の皆さまからは、よく出てきた「共助」という言葉自体がなかなかわかり難いような気がした。発音も聞き難かったところがあるが、防災で一番大事なことは自分でやりますの自助と共助と公助の3つの枠で、これが原理原則になっていると思うが、そこが上手く分類されていれば、聞いている人がもう少しわかりやすかったのではないかという気がした。

中学校の生徒さんも色分けなど工夫をしていたが、防災に対する真剣な取り組みが伺えた。本当にいろんな意識を目覚めさせてくれた番組だったと思う。校長先生自身も初対面の方、遠方から来られた方にはまずは避難路の話をしてから挨拶をするという、まさに天災はいつどこで起こるかわからない意識の表れではなかったかと思う。

災害については忘れた頃にやってくるということで、これから災害のシーズンになるが、こういった番組を放送することで、備えに対する気づきやきっかけづくりになるので、定期的に放送していただけるととても有り難いと思った。

太平洋地区の沿岸の人たちはあんなに真剣に取り組んでいるのに、それに反して瀬戸内海沿岸地区は一体どうなんだろう。番組はそれについてもっと警鐘を鳴らしてほしかったと思う。

中身が非常に濃厚なのに、それが十分リスナーには伝わっていないだろうな、という感想。テレビと違って画像がないので、伝わる情報量が少ないのはやむを得ないが、場合によっては、同じ内容をテレビ番組としても放送し、ラジオで興味を持った方がテレビでもっと深く知る、といった連動もあっても良いのかもしれない。

興津地区の取材は、備え、という意味では参考になったが、津波対策が中心であり、あまりに香川県とは違う環境であるため、先進地区の例の選定が適切だったかどうか。岩崎さんの指摘するような、自治会単位での電源の確保、水や食糧の確保、地域での連携などの点で参考になるような例の方がもっと香川県の方々にはわかりやすかったのではないか。

との意見がありました。

制作者からは、キャンペーンの総まとめの形でこの防災特番を行っている状態です。

これは東日本大震災以降、ずっとやっているものですが、私もいろんなワイド番組のキャンペーンの企画や特番をするとき、いろんなところで取材をしてきましたが、ただ、東日本にも真備にも行ったことはありません。ですが、私にできることはそれを伝えることという形でボランティアで行けなくても何かできることはないかと、ボランティアの人たちといろいろ話をしました。

何で興津を取り上げたのかですが、香川県の人が経験していないことを興津地域の人には経験しており、しかも子どもたちが熱心にやっていることから、もし番組を聞いた方が、興津はこんなに大変なんだという印象を持ってくれたら正解だったような気がします。また皆さんのお話のようにラジオでは伝えることが難しい部分が多々あります。ただ、ラジオだからこそこまめに続けていくことができるのではないかというご意見があるので、キャンペーンや防災特番を通して今後も続けていきたいと思っています。

1人でも多くの方がこの番組をきっかけに意識が変わり、それで命が助かる場所に落ち着いたらいいなと思っています。旨が述べられました。